

すべてのステークホルダーの皆さまへ（会長メッセージ）



オリンパスでは、引き続きコーポレート・ガバナンスの充実を図るとともに、
今後は時代や環境の変化を見据えた、
グローバルでガバナンスを効かせられる体制の構築を目指します。
One Olympus（ワン・オリンパス）の精神でグループ一丸となって、
株主価値向上に向けて全力を尽くしてまいります。

取締役会・ガバナンスについて2年間の振り返り

この2014年3月で、取締役会長に就任して2年が経ちました。社外取締役が過半数を占める当社の取締役会は、日本でも非常に稀有な体制だと思えます。就任1年目は一連の不祥事を受け、経営体制が刷新されたこともあり手探り状態ではありましたが、取締役全員が課せられた責任とプレッシャーを感じながら、非常に活発な議論を交わしました。2年目も、明確な問題意識と責任感を持った忌憚のない多くの意見が出され、引き続き変わらず活発な議論が交わされる等、経営の監視・監督機能は十分に発揮されていると考えます。

この1年間は全般的に順調な運営ができた一方で、今後の課題や目標が明確になってきたと感じています。これまでは、規則の再整備等、非常に細かく厳密な管理に比重をおいてきました。今後は、いかに取締役会の機能をより高度なレベルに持っていか、あるいは、環境の変化等、将来のダイナミックな展開を見据えて、グローバルでガバナンスを効かせられる体制をどのように構築するか、ということ議論しなければいけない段階にきています。それは決して受身なものではなく、万人に受け入れられる枠組みを自分たちでつくるという自立性の高いものでなければなりません。そのためには、外部の声により一層耳を傾け、「開かれた組織」へと変わる必要があると思えます。私ができることは、「外には別の世界がある、だから皆さん窓を開けましょう」と声をかけるところまでです。外に向かって窓を開けるのは社員一人ひとりが自分でやらなければなりません。一人ひとりが変わることで、初めて会社が変わると考えています。

ステークホルダーの皆さまに向けて

ステークホルダーと企業の関係は新しい時代に移りつつあると思えます。皆さまが企業に求めることはそれぞれ異なり、そうしたご意見の多様性そのものがオリンパスにとって大きな価値になります。これらは、経営の方向性を考える上で大変参考になりますので、是非積極的に、長期的な観点でさまざまなご意見をいただきたいと思えます。一方的なものではなく、企業と皆さまとがお互いコミュニケーションをとることで、双方にとって有益な、win-winな関係になると信じています。

引き続き、生まれ変わるオリンパスに是非ご期待いただきますとともに、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2014年8月

取締役会長
木本 泰行

木本泰行